

10) 東洋歯科医学校創設から佐藤運雄校長を支えた名補佐役川合渉と中川大介両先生について

Great celebrated persons Dr Wataru Kawai and Dr Daisuke Nakagawa from Toyo Dental School to principal of Kazuo Sato

日本大学歯学部 工藤逸郎, 三宅正彦, 見崎 徹, 小室歳信, 金山利吉, 若松佳子
納村晋吉, 篠田宏司, 太田 肇, 下山哲夫, 会田卓久, 松江高光

Itsuro Kudo, Masahiko Miyake, Tooru Misaki, Toshinobu Komuro,
Toshiyoshi Kanayama, Yoshiko Wakamatsu, Shinkichi Namura, Kooji Shinoda,
Hajime Oota, Tetsuo Shimoyama, Takuhisa Aida and Takahikaru Matsue
Nihon University School of Dentistry

東洋歯科医学校を大正5年(1916)4月創設した佐藤運雄は本校を東洋歯科医学専門学校, 日本大学専門部歯科, 日本大学歯学部と発展させ現在に至っている。佐藤の補佐役をして多くの人材が関わっているが, 特に東洋歯科医学校創立時より関与した盟友の川合渉と中川大介は名補佐役として佐藤を支えていた。

今回は佐藤と両補佐役の概要について報告する。

三者共通の点についてはまず現在の東京歯科大学出身であること, すなわち, 佐藤は明治31年(1898)7月高山歯科医学院, 川合は明治39年(1906), 東京歯科医学院, 中川は明治41年(1908)7月東京歯科医学専門学校を各々卒業している。

第2には東京帝国大学医科大学歯科(現在の東京大学医学部口腔外科学教室)に勤務後(中川以外)関連病院である南満州鉄道大連病院兼南満医学堂の医員として勤務したこと, すなわち佐藤は明治41年(1908)6月現在の東大医学部口腔外科石原久教授)の命を受け同病院歯科口腔外科医長, 南満医学堂教授として赴任, 川合も同じく佐藤と共に満鉄病院歯科口腔外科に赴任, 中川も大正2年(1913)9月から満鉄病院に勤務した。

第3には三者ともに東洋歯科医学校の創設発展に寄与したことである。

満鉄病院に勤務していた佐藤は明治43年(1910)6月病気のため満州より帰国し, 大正元年(1912)9月正式に辞任した。佐藤は大正5年(1916)4月に東洋歯科医学校を創設したが帰国した川合も学校創設と同時に東洋歯科医学校講師, 幹事として学校創設に尽力した。

中川は大正5年(1919)9月満鉄病院を辞任して10月東洋歯科医学校講師として帰任した。

この背景には佐藤が唱えた医歯一元論の考え方があり, それを実践しようとする意欲があったものと思われる。

川合, 中川両氏は東洋歯科医学校の専門学校昇格に伴い, 教授に任命され大正11年(1922)6月日本大学に併合と同時に, 引き続き日本大学専門部歯科教授となり川合は附属医院長に任命された。両者はその後も精力的に日本大学専門部歯科の充実発展に努力された。大正15年(1926)8月日本大学歯科医学校(夜間)の設置が認可され川合が校長に任命されている。

昭和18年(1943)5月には中川は専門部歯科長に就任した。病気が回復した川合は昭和23年(1948)9月最後の専門部歯科長兼附属医院長に任命され, 昭和22年(1947)6月新制の日本大学歯学部が設置が認可され, 昭和24年(1949)4月佐藤運雄の定年に伴い第2代日本大学歯学部長に就任した。

川合は昭和27年(1952)3月定年で退任され4月には名誉教授の称号を授与されたが昭和34年(1959)1月20日逝去された。享年74歳であった。

中川は昭和27年(1952)3月定年で退任され, 名誉教授の称号を授与されたが昭和29年(1954)12月28日に逝去された。享年67歳であった。

佐藤は昭和39年(1964)1月に逝去されているので川合はそれに先立つ約5年前, 中川はその10年前に逝去されたことになる。

両者ともに佐藤を助けて学内のみならず同僚歯

科医学専門学校、歯科大学、文部省、厚生省、歯科界にも多くの足跡を残された。

佐藤にとっては弟子であり盟友として苦楽をともにした両者の逝去は痛恨の極みであったことと

思われる。その後の日本大学歯学部発展は創設者の佐藤とともに川合、中川両氏の偉大なる補佐役の存在を見逃すことはできない。